

【抄 録】

『天然歯の色彩を模倣するために有効な基礎知識』

瓜坂 達也

(大阪府歯科技工士会)

昨今、歯科材料の進化に伴い二ケイ酸リチウムやジルコニアなどの普及が進み、オールセラミックスの市場が拡大傾向にあります。そして、従来と比較して色調に対する要求も高まっており、術者側では使用する材料の色調特性の理解はもとより、患者ニーズや求められる色調の具体的情報をいかに精度高く収集できるかがポイントになってきます。

現在の色調の具体的情報源としては、シェードガイドと共に撮影されたシェードテイキング時の写真や画像が主なところですが、チェアサイドから技工サイドに届く写真や画像については「この写真があると色調再現の仕事がしやすい!!!」と術者である歯科技工士が思うものは少なく、実際のところなかなか良い写真に出会うことがありません。また、たとえ確かな写真であってもそれをどのように臨床技工に反映させるのかという問題もあります。

そして、天然歯の色調を再現するためのテクニックを大きく2つに分けると、ポーセレン多色築盛法とステイン法があります。

ポーセレンの多色築盛は、天然歯の構造を理解し表現することにより審美性の高い補綴物が製作可能ですが、前述の色調特性を理解しそれを再現するには経験を積むことでしか得られません。

そしてモノリシッククラウンに着色し天然歯する方法、いわゆるステイン法はポーセレン多色築盛方に比べ比較的簡単に経験の少ない人でも色調再現ができる方法として現在のトレンドになっています。

一見簡単なステイン法と思われがちですが、ポーセレンの多色築盛のように天然歯構造を模擬することで自然な色調を得る製作方法とは違い、表面での着色であたかも象牙質にエナメル質が覆われているような天然歯の構造を立体的に表現をしなければならないのです。

このことはポーセレンの多色築盛よりはるかに難しく繊細なテクニックであると言えます。

今回、天然歯の色彩を模倣するための作業環境やポーセレンの扱いかたの基礎知識を紹介したいと思います。